

# 平成29年度事業報告書

平成29年4月1日から30年3月31日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

## 1 事業の成果

### 財務状況に関する課題

2008年に事業型NPOを目指す方針を掲げて、2010年度より2名の常勤雇用の体制を取り、昨年までは黒字収支を計上してきたが、今年度は大きな赤字を計上した。

前年度と比べ、寄付金、助成金、自主事業収入がそれぞれ数10万円から100万円超の減収となっており、その他の収益事業の減収も見られた。

2017年度の総会で決定した予算からみて、寄付金は、200万円の目標に対して14%の達成率となっている。また、自主事業収益400万円に対して、260万円の到達となっており、この2つの基本財源の減少が財務状況悪化を考える上で深刻な問題となっている。

自主事業を地域の中での社会的事業と位置づけ、収入の根幹に据えることは健全な活動と財務を形成する上で必要であるが、特に収益性の点からの大胆な見直しが必要となっている。

### 組織構築の課題

今年度は1名が退会して友の会に移ったため現在会員数は22名となった。4名の新たな会員という目標に対してはマイナス1であった。

日常の活動に参加する会員は増えており、常勤職員と会員メンバーとの交流も増えているが、これらの人々を会員として迎えるための呼びかけが不十分であることが会員が増えない原因となっている。Panasonic ファンドで作成したパンフレットが活用されていないことも問題である。

### 研究・啓発活動の進展

ビジョンプロジェクトについて新しい研究の枠組みが発足した。一方で、これまでのフィールドワークを行ってきた研究プロジェクトチームが機能していない。これは、研究分野の会員がたいへん忙しく時間がとれないことが大きいですが、同時に、会員を幅広く取り込んだ活動にはなっておらず、拡がりを作るところでの課題が生じている。

河北潟研究奨励助成を3件採択した。

流域での土壌に関する研究が進んだ。

#### 住民連携の課題（河北潟自然再生協議会）

河北潟クリーン作戦の実施主体としての河北潟自然再生協議会の組織力が低下していることに対する取り組みは継続的に実施しているが、当研究所からの協議会担当者が多忙であり、何らかの役割分担が必要になってきている。

河北潟クリーン作戦実行委員会は引き続き機能しており、第 24 回クリーン作戦の実施体制を作ることができた。

河北潟自然再生まつりは 2017 年度よりは参加者が少なかったが、300 名を超える参加があり地域の取り組みとしても定着している。

#### 地域連携の拡がりを作る（企業・団体・NPO との連携の課題）

流域連携のためにシンポジウムを開催して、河北潟と流域の 3 地域が参加した。金腐川と森下川流域の住民にアンケート調査を実施した。

クリーン作戦に対して多くの企業協賛が集まった。新たな企業からの会員により、企業との連携が進んだ。

流域協議会の発足に向けたシンポジウムを開催した。

#### 自主事業の展開

##### <生きもの元気米>

2017 年は、新たに 2 枚の田んぼが加わり、9 枚の水田で約 6 トンを買取りした。また、2017 年度の生きもの元気米販売金額は約 170 万円となった。

##### <すずめ野菜>

2017 年度に生産した野菜の品種は約 65 種類であった。

##### <金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ>

金沢駅西口のイベント広場を会場に、計 35 回開催した。

#### 受託事業

受託事業については、新規の受託事業がなく受託事業での資金獲得が進んでいない。受注しても業務体制においてこなせない状況もあることから現時点での受注に向けた積極的な取り組みは行わなかった。そのため 2017 年度においては財源上の問題が生じている。

#### 寄付金事業について

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様より「eco 保険証券・Web 約款選択件数に応じた寄付活動」に基づく寄付金 16 万円をいただいた。

新たな寄付窓口として、ホームページ上でクレジットカード決済または銀行振込による寄付ができるページを設置した。

## 助成金事業について

### <地球環境基金>

「河北潟の水辺保全活動をすすめるための流域がつながる仕組みづくり」との名称で 2017 年度より 3 年間の予定で活動をすすめている。河北潟およびその沿岸部はもちろん、流入河川の上、中流域住民に河北潟や環境保全活動にかんする PR を行い、流域全体で水の流れに対する意識の向上と、環境保全に取り組む仕組みを作ることを目標とする。

2017 年度は以下のような活動を実施した。

- ・河北潟流入河川の上流域も含めた流域住民に、流域に関するアンケート調査を実施、377 人から回答を得た。
- ・河北潟流入河川の情報収集を行い、1 河川で上流から下流にかけて現地調査を行った。
- ・長良川や鳥取県湖山池、島根県宍道湖・中海、高知県大月町等を視察、流域での活動事例やエコツアーリズムについての情報を集めた。
- ・セミナー、勉強会を計 5 回開催、3 月 5 日の勉強会では、河北潟のみならず、森下川や金腐川、浅野川等流域各地の活動や現状等を学びあうことができた。計 85 人が参加した。
- ・金腐流域住民を対象にイベントを実施、河北潟に触れる機会を作った。
- ・金沢駅の駅西イベント広場でマルシェを 35 回開催、金沢市中心部住民に河北潟の PR を継続して行った。また首都圏イベントに出展、流域の自然環境や活動の PR を行った。

### <未来につなぐふるさと基金（キヤノンマーケティングジャパン）事業>

主に七豊米の活動に関するプログラムを 5 回実施した。七豊米田んぼでは田植え、観察会、稲刈りイベントを実施、こなん水辺公園での写真教室と生きもの地図作りイベントを実施、のべ 95 名が参加した。七豊米田んぼでは、日常の栽培やイベント運営でボランティアや理事の方々にご協力をいただいた。参加者には昔ながらの農作業を体験してもらえ、田んぼの生きものについて知ってもらうことができた。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
研究・広報及び日常活動	河北潟の自然環境等の研究、 広報誌の発行、通信活動等、 研究助成	29年4月～ 30年3月	河北潟及 び周辺	7	全国の研究者、 地域住民等 110万人	510
協働の推進 による保全 活動	水辺の保全活動、チクゴスズ メノヒエ除草及び水辺管理体 制の確立、学習活動、体験活 動	29年4月～ 30年3月	河北潟	448	農家・住民等 10万人	5,030
こなん水辺 公園協働事 業	河北潟とこなん水辺公園の自 然について来園者らに解説	29年4月～ 30年3月	金沢市	5	金沢市民その 他 50万人	453
グリーンア ース連携事 業	干拓地における水辺と農地保 全活動	29年4月～ 30年3月	河北潟干 拓地	5	地域住民等 10 万人	2,430
出版販売事 業	地域環境保全のための冊子の 普及事業	29年4月～ 30年3月	全国	4	全国のナチュ ラリスト、地 域居保全活動 者 1万人	340
地域循環社 会事業	環境保全米、循環型の野菜の 生産拡大	29年4月～ 30年3月	全国	4	地域住民等 10 万人	3,931

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
受託事業	調査受託等	29年4月～ 30年3月	石川県内	2	1,215